

令和7年度第2回富山県総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和7年8月4日（月）13:30～14:05
- 2 場 所 県庁4階大会議室
- 3 出席者 富山県知事 新田 八朗
富山県教育委員会
教育長 廣島 伸一
委 員 坪池 宏
委 員 大西 ゆかり
委 員 黒田 卓
委 員 牧田 和樹
委 員 松岡 理
- 4 事務局出席者 経営管理部長 田中 雅敏
経営管理部次長 矢野 康彦
理事・教育次長 小杉 健
教育次長・教育みらい室長 中崎 健志
教育次長 板倉 由美子
学術振興課長 水上 優
教育企画課長 森安 祐成
他関係課職員数名

5 議 事

次期「富山県教育大綱」の策定について
次期「富山県教育大綱」骨子（案）

6 会議の要旨

司会が開会を宣し、新田知事の挨拶後、富山県総合教育会議運営要領第3条並びに知事の指名に基づき、以後の議事については田中経営管理部長が進行した。

次期「富山県教育大綱」の策定について

（田中経営管理部長）

- ・事務局から、次期「富山県教育大綱」の策定について説明する。

森安教育企画課長が、資料1「次期「富山県教育大綱」の「基本理念」（案）について」、資料2「次期教育大綱の体系について」、資料3「次期「富山県教育大綱」骨子（案）」に沿って説明した。

(田中経営管理部長)

- ・委員の皆様からご意見いただきたい。

○委員からの意見

(牧田委員)

資料 2 の (エ) に、ライフステージに応じた事例集を作成するとあるが、そもそも事例集とは、今あることを集めてくるのが事例集なので、例えばこれから新たに、こういうのいいのではないかと新しいアイデアなどはまだ事例にならない。

それを踏まえて、次のページの「体系（案）のイメージ」に関わってくるが、基本的に、教育方針や方向性というのは、行政組織で言うところの縦の組織や施策である。つまり、教育方針 1 では「一人ひとりの可能性を引き出す質の高い教育の実現」と書いてあるが、これは例えば、幼児、小学生、中学生、高校生、高等教育、そしてリカレント教育というように、まさにライフステージごとにあると思う。

知事も挨拶でおっしゃったが、総合計画とリンクしているという話で、その総合計画が議会ではわかりづらいと言われたと新聞報道で見た。多分、総合計画も同じ課題にぶつかっているのではないかと考えている。

つまり、人が中心の計画になっていなければいけないが、いわゆる行政の施策内容が中心になっていっているのも、そこがわかりづらいのだろう。

この教育大綱については、やはり人を中心に、わかりやすく示すことが大事だと思っている。例えばこの体系のイメージでいくと、方針が横にあったとしたら、今度は縦に、幼児期、義務教育、高校、大学というようなマトリックスを作り、それぞれがクロスしたところで、どういうことに重点を置くかを見せた方が、本当に身近な教育大綱になるのではないかと。

射水市の総合計画策定の際に今と同じことを提案したが、人が中心であるのだから、ライフステージに応じて計画を立てるべきで、そうして整理したものがすごくわかりやすくなったと、周りからは言われている。そういうことも参考にしていればと思う。

(大西委員)

基本理念も、この体系の案のイメージも前回の案策定時よりもシンプルになり、とてもわかりやすくなってよかった。

人の一生を通じて学びがあるということを牧田委員は言われた。(施策が人の一生のいつ、どのように関わるかを)示すために事例集を作成するということが書かれているが、こうした例が書かれることは、イメージしやすくよいのではないかと思います。とても期待している。

資料 1 の「(1) 教育をめぐる現状及び教育に求められること」の 2 点目、「予測困難な時代において、持続可能な社会の維持・発展が求められている」とある。教育に求められることというのは、この持続可能な社会の維持・発展ができる人材を育てることや、その社会を主体的に作る人を育成することが大事なのではないかと思っている。

そうすると、骨子案の中にもそういう視点を持っていただきたいと感じたところがいくつかあり、持続的な社会を形成していく主体の育成という視点になるが、これは子どもに限らず、大人もとなる。

例えば、国の教育振興基本計画にある、「持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて」というところは、このような視点を入れていけばよいのではないかと思う。今、地域社会は地域コミュニティを継続することが難しくなっていて、教育や福祉など（の分野で）も頼ることがあるが、地域社会、地域コミュニティを地域に住まうあらゆる世代の住民が主体的に作り上げていく人材の育成や公民館機能の強化など、そうした視点も入れていただけたらと思う。

そうだとすれば、この事例集には、個人の学びを重ねていくことだけではなく、社会教育の視点や、幼児の場合は家庭教育の視点、地域や家庭、社会や職業を通してということも盛り込んだ事例があれば良いと感じた。

（黒田委員）

細かいところだが、少し違和感を感じるところが1ヶ所ある。資料3で、主な施策の方向性（5）に「学校安全」と入っている。安全安心な学校を作るということであれば、教育方針4の子どもたちの学びを支える教育環境の構築の方になるのではと思う。

そうではなく、学校安全の推進というよりも、子どもたち自身が安全や防災を考えて行動できるようにするというような目標にすれば、今の教育方針2のところにはまりやすいと思っている。

具体的にどうしたらよいかというところまでは考えきれていないが、この項目だけが、並びという意味では他のところと少し違うのかなと思った。

事例集の話が牧田委員や大西委員からも出てきているが、事例集というよりも、この大綱の対象期間が終わった頃に、どういう姿になっているのかをイメージできるような、小さな子どもを持っている家庭ではどのようにこれが影響してくるのか、学校はどのようになっていくのか、生涯教育のところでは、どのような形で今までと変わってくるのかといったものを、入れたらどうかと思う。

2005年頃に、文科省の委託事業で教室へのICT導入の計画を作ることにも関わらせていただいた。その中で、例えば2010年の誰々の1日や、2015年の誰々の1日のような形で、皆でどのようなイメージになるのかを想像し、議論して作ったことがある。

骨子案を一つ一つ見ていって、その一つ一つは納得されると思うが、施策によってどのように富山県の教育が変わっていくのかということが、なかなか見えないと思う。そうしたものをイメージできるような話でよいと思うので、そういう話がイラスト1枚といったものが付けられるとすごくイメージが湧きやすくなるのではないかと思った。

（松岡委員）

ふるさと文学という言葉があるが、これは一般的な言葉なのか。富山県出身の方

の作品を学ぶという意味合いの理解でよいか。一般用語として、ふるさと文学という言葉は使われているのか。

また、生涯教育と言ったことを、大きく打ち出しているということであれば、少し省略できる言葉があるのではと思って読んだ。フレーズは短いほど良いと考えると、例えば、富山県の教育大綱なので、この「県民一人ひとり」の「県民」は必ずしもいらぬのではないか。あるいはこの大綱が全ジェネレーション、幼児教育から生涯教育までを含んでいるということであれば、例えば、この教育方針の施策の方向性の中の「文化芸術の振興」にある「こどもが文化芸術に触れ親しむ機会の拡充」の「こどもが」は「県民が」と書き換えても同じということであれば、この「こどもが」は要らないということになってくる。すると文字数が減って、よりシャープになってインパクトを与え、メッセージ性も強くなると思う。「こどもが」をどうしても残さなければいけないところはそれほど多くないのではないかと思った。

(坪池委員)

前回の教育大綱に比べると、かなりまとまってわかりやすくなっていると思う。

個人的な見解かもしれないが、今、教育が抱える様々な問題をずっと集約していくと、どの問題もおそらく、生涯学習につき当たるというふうに考えている。そういう意味では、この基本理念は非常によくできていると思っている。

(広島教育長)

案を取りまとめる事務局という立場で言わせていただく。

黒田委員から、方針ごとの施策に重複があるのではというご指摘をいただいた。確かに4つの教育方針で、家庭教育という単語は使っていないが、家庭教育と学校教育と生涯教育という流れがある中で、それが1、2とあり、3に生涯教育のような部分が出てきて、また4に学校教育の教育委員会の施策的なものを書いてあるという構成になっている。

大綱全体の説明をするときの流れも、改めて私どもで想定をして、牧田委員が最初に言われたライフステージに応じたというような流れも含めて、具体的な施策の方向性を皆様にわかりやすい形にまとめるのが私どもの責務と感じた。

(田中経営管理部長)

今回の協議内容を踏まえ、知事からご発言をいただきたい。

(新田知事)

前回までの経緯を踏まえて事務局で作成した骨子案をお示しし、皆様から積極的なご意見をいただいた。

今日のアウプットとしては、基本理念について、「生涯にわたる学びを通して、県民一人ひとり（「一人ひとり」になるかもしれないが、）のウェルビーイングを高める」ということで進めてよろしいか。

中身についてはいくつかご意見いただいたので、次までに精査をして素案にさせ

ていただきたいと思う。

これからの富山県教育の羅針盤となる大変重要なものを、我々は今取り組んでいる。子どもたちの未来に希望を持って、そして一人ひとりのウェルビーイングを高めていける、そうした富山県を実現するために引き続き皆様のお知恵をお借りしたいと思う。

(田中経営管理部長)

ただ今の発言にもあったが、事務局においては本日のご意見をもとに内容を精査し、さらに有識者からの意見も聴取しながら、素案の作成に向けて具体的な準備を進めるようお願いする。

以上で本日の議事を終了する。

この後、事務局より、閉会の挨拶を行った。

以上